

愛……  
それは2人だけの《マイ・ウェイ》  
\*あのメロディからまたひとつ 涙と感動の詩が生まれました…

# My Way 2

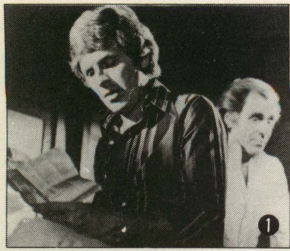
## マイ・ウェイ

ジョー・スチュワードソン  
リチャード・ローリング  
デビー・ビンガム  
マリー・デュ・トワ  
トニー・ジェイ



カラー作品  
監督ヤンス・ローテンバック  
製作ヤンス・ローテンバック  
エミール・ノファル  
撮影ピンセント・G・コックス  
オリジナル・サウンドラ盤 (ワーナー・パイオニア)  
主題歌クライド・レイ (東宝EMI)  
松竹・富士映画共同配給





あれから3年…。マドックス家にもようやく春が訪れていた。だが、その春はあまりにも短く一夜のうちに色褪せてしまった。古い一通の電報が次男ポールの出生の秘密を暴いてしまったのだ…。

ウィル「たとえ実の子でなくても25年間も育てて来たんだ。おまえは私の息子だ！」

ポール「父を捜しに行くよ。自分が誰か知りたいんだ。」

悲嘆にくれるウィルの耳には妻のなぐさめの言葉も聞こえない。一層かたくなになるだけだった…。



ウィル「私は息子をうしなったんだ…」

フラン「あなたに大切なのは息子とトロフィーなのネ…」

そう言い残すと妻は娘のサンディーを連れて家を出た。

そんな時、妻と娘を事故で失ったショックから立直った長男のトニーが父の事業を継ぐべく帰って来た。トニーは父のウィルに対して決然と言う。

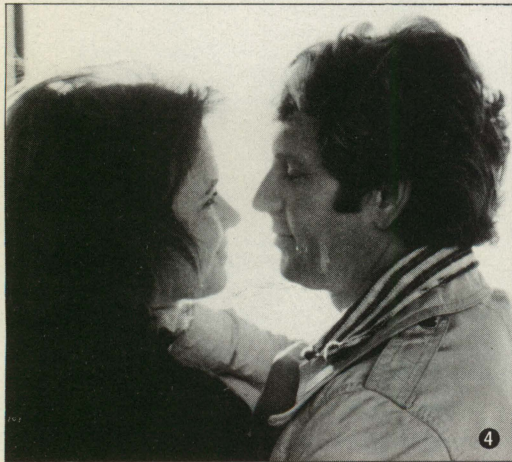
トニー「私がNo.1、そして私の片腕がNo.2」

ウィル「引退しろというのか!？」

トニー「役員になってもらいます。月に一度僕が会う…」



一方、父を捜す旅に出たポールは旅先で美しい娘ジャッキーに出会い恋に落ちていた。そして、実の父とめぐりあった後ジャッキーの口から思わぬ言葉を聞いた。



ジャッキー「私はウィル・マドックスから大金をもらってあなたの父を捜すために雇われたの!…でも…あなたを愛してしまっただけ…」

ポール「なぜだ!…なぜなんだ!…」 涙で頬を濡らして走り去るジャッキーをただ無言で見つめるポール…。

ヨハネスブルグから少し離れた別荘地、川を見下ろす別荘で静かに暮すフランとサンディー母娘。訪れたネイティに2人は喜びの表情を隠しきれない。抱きあう3人を避暑地のやさしい光が包む…。

素敵な《愛》の映画です

カラー作品 ■ 松竹・富士映画共同配給



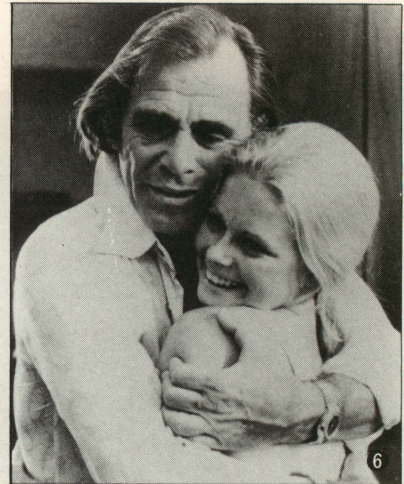
# マイ・ウェイ2

My Way 2

あなたが私のとなりになります。初めてのデートです。開映を告げるベルがなります…。



夜… マドックス家のドアを叩く人影がある。サンディーだ! 孤独な父は満面の笑みと涙で娘を抱きしめる。



サンディー「パパと一緒に暮したかった…」

ウィル「黙って頷く」… さあ、コーヒーが冷めるよ」

再び笑いを取り戻した父娘にトニーから朗報が入った。念願だったロバーツ湾開発を落札し、新たに手を出したレコード部門もミリオン・セラーを記録したというのだ。その陰には秘書スコティのやさしい愛があった。

トニー「一緒にいてくれるネ…」

スコティ「永遠に?…」

トニー「ああ、秘書は落第だ!…」



トニーは夢中だった。「事業の手腕で父に勝った!」。そして今秘書のスコティの愛も手に入れた。そんな人生の絶頂期に、突然、神に召される…。かけつけたポールやネイティ、サンディーの言葉も父は頑として受けつけなかった。

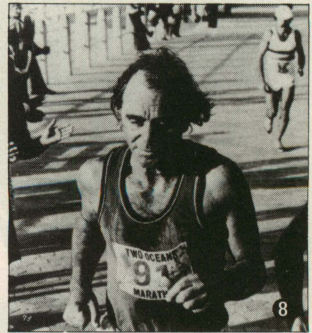
ポール「パパは忘れてる…トニーは僕の兄だ!」

ウィル「私には息子がなくなった…」

サンディー「パパ…私がパパに孫をあげるワ…」

ウィル「でも…マドックスじゃない…」

ネイティ「ウィル、人生に何が起ったかは問題じゃない!」



どう対処するかが問題なんだ!」

ウィル「私は今まで神に近づかなかった…。また誰かを失うなら、私が走って死ぬべきだ…」

ウィル・マドックスは大陸横断の150キロマラソンに出場する。もう若くはない…。老いた肉体にとって最後の、そして、命がけの挑戦だった…。

12月17日(土)より新春《愛》のロードショー!

渋谷東急 (407) 7029

\* 特別鑑賞券 ¥1,000 好評発売中 ■ 時間 日・祝及1/2~1/8 10:25 平日・元旦 12:35 2:45 4:55 7:05